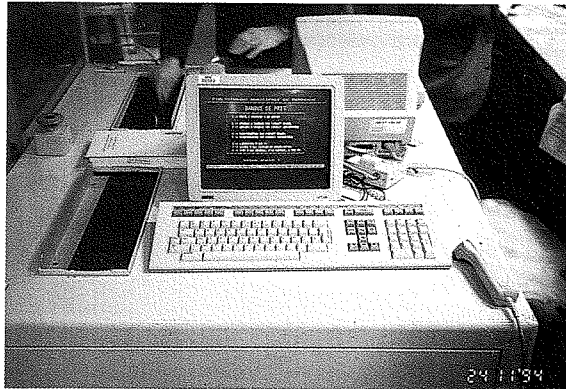
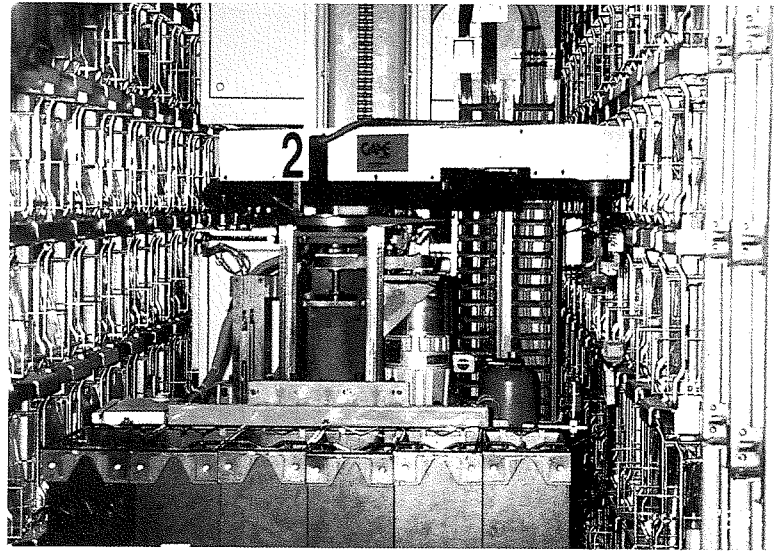


昨年(1994年)の11月23日から12月1日にかけて、フランスのボルドー市立図書館と、アメリカのカリフォルニア州立大学ノースリッジ校図書館(以下CSUNと略す)に設置されている自動化書庫を見学する機会が与えられた。この二つの図書館の自動化書庫は、おそらく本を格納している大規模なシステムとしては世界でも類をみないものであろう。そして、この二つのシステムが異なった性格を与えられていることも興味深いところである。

CSUNの自動化書庫は本誌 122号の記事で詳しく説明されているので、ここではざっと述べることにする。

CSUNでは1991年にスペースの節約、コストの節減を目的に自動化書庫を稼働させ、スタックークレーン方式の自動倉庫でコンテナに納められた本を約120万冊格納できるようになっている。対象としているものはほとんど利用されない(利用されなくなった)図書資料類である。この自動化書庫の導入で不要な資料を開架スペースに置く必要がなくなり、結果として利用者へのサービスレベルが向上したり、また図書館の試算によれば管理運営費用が従来方式の4分の1になったと報告されている。

一方、ボルドー市立図書館の自動化書庫はCSUNのそれとは異なり、利用者への貸出・返却処理という図書館職員と利用者との受け渡し以外の部分がすべて自動化され、しかも利用頻度の高い本がその対象となっている。2台のロボット(スタックークレーン)で棚に格納されている約10万冊の本を、図書館職員に代わ



ボルドー市立図書館の自動化書庫

上=中央がロボット(スタックークレーン)、両側が棚、手前の黒い箱が搬送ケース
下=図書の出し入れ口、搬送ケースに入った図書が、ここまで自動的に搬送されてくる

り自動的に出し入れを行っている。利用者から要求された本が自動的に棚から取り出され、カウンターまでの搬送も自動的に行われている。返却も同様に自動搬送され棚の中に格納される。

ボルドー市立図書館では、19世紀から20世紀にかけて出版された本で1冊しかないものが50万冊ほどあり、これらの本の扱いに苦慮していた。盗難にでもあって貴重な資料がなくなってしまうは大変である。このことと、これらの本の利用頻度が高いこと(10万冊で全体の8割の利用がある)が自動化書庫の導入のきっかけとなっ

たようだ。

これら二つの自動化書庫システムはその性格、運用、ハード構成など異なるものの、それぞれが新しい図書館の保管方法、図書館の自動化に対する一つの方向性を示唆しているように思う。特に国土の狭いわが国の国情を考えると、CSUNでの例がどれだけ図書を保管することにおいて有効であるかは明白であろう。必ずしもすべての例に当てはまるわけではあるまいが、少なくとも従来の棚と常に同じ土俵の上で比較検討されてもよい時期に来ているのではないだろうか。